

答え合わせ・解説

問1	答え 1 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。
問2	答え 1 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。	ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとしていました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百済が対立しており、その中で軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。
問3	答え 1 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。	5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
問4	答え 2 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。	九州（熊本県）と関東（埼玉県）という、当時の交通手段では非常に遠く離れた2つの地点から同じ大王の名を記した刀剣が出土したことは、大和政権の支配力がその両地域にまで及んでいたことを客観的に証明するものです。一方で、この時代の支配が東北地方にまで及んでいたことを示す証拠は見つかっていないため、範囲の特定には注意が必要です。
問5	答え 1 大王は、有力な豪族たちと連合し、彼らに従えることで政権を運営した。	ヤマト政権は当初、奈良盆地などの有力な勢力が結びついた「連合政権」としての性格が強いものでした。大王は、各地の豪族に「氏（うじ）」や「姓（かばね）」という地位を与える氏姓制度などを通じて、彼らを組織的に従えながら統治を進めていきました。
問6	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問7	答え 1 南朝	5世紀の中国は、華北を支配する北朝と、江南を支配する南朝に分かれて対立していました。地理的に南に位置する王朝と交流しやすかったヤマト王権は、南朝の諸王朝へ「倭の五王」と呼ばれる王たちが相次いで使者を送り、朝貢を行いました。
問8	答え 3 渡来人	朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に仕え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。

問1 5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。（2026年 高知公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 倭寇 3. 朝鮮通信使 4. 防人

問2 滋賀県の古保利古墳群のように、この時期に築造された前方後円墳などの古墳文化は、当時の東アジア情勢と深く関わっています。4世紀末から5世紀にかけての、日本（倭）と朝鮮半島諸国との関係についての説明として正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている
2. 日本は新羅と強固な同盟を結び、高句麗を滅ぼして朝鮮半島北部に領土を広げた
3. 当時の日本は聖徳太子を中心に、隋に対して「日出づる処の天子」で始まる国書を送ることに専念し、半島情勢には介入しなかった
4. 日本は高句麗と連合して百済を攻め、その見返りとして仏教の公伝を受けた

問3 3世紀後半から6世紀にかけて、日本各地の有力な豪族の墓として築かれた古墳のうち、上空から見ると円形と方形（四角形）を組み合わせた鍵穴のような形をしている、日本独自の形式を何と呼びますか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 装飾古墳

問4 4世紀から7世紀頃、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝えた人々を何と呼ぶか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 遣隋使 3. 防人 4. 御家人

問5 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌（きんぞうがん）によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。（2024年 大阪公立入試 類似）

1. ワカタケル大王 2. 卑弥呼 3. 聖徳太子 4. 中大兄皇子

問6 5世紀から6世紀にかけて、日本列島には大陸から多くの人々が移り住みました。この時期の遺跡である前方後円墳などからは、円筒埴輪や人物埴輪とともに、高温の窯で焼かれた硬くて灰色をした土器が出土しています。この土器の製作技術を日本に伝え、さらに文字や儒教、仏教といった高度な文化をもたらした人々を何と呼びますか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 防人 3. 遣隋使 4. 語部

問7 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。
2. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。
3. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。
4. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。

問8 朝鮮半島における高句麗、百済、新羅の三国抗争期において、日本（倭）の動向や影響について説明した文として最も適切なものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 朝鮮半島からの渡来人が、須恵器の製作技術や漢字、儒教などを日本に伝えた
2. 秦の始皇帝が派遣した軍隊と協力し、高句麗の南下を阻止した
3. ナポレオンの軍勢による混乱に乗じて、朝鮮半島全域を直接支配した
4. オランダとの貿易を優先するため、朝鮮半島諸国との国交をすべて断絶した

問9 古墳時代の日本において、朝鮮半島から伝えられた技術によって作られるようになった、高温で焼成される灰色の硬い土器を何と言いますか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 須恵器 2. 縄文土器 3. 弥生土器 4. 埴輪

答え合わせ・解説

問1	答え 1 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問2	答え 1 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている	当時の日本（倭）は、鉄資源の確保や先進文化の導入を求めて朝鮮半島南部への進出を図りました。高句麗にある好太王碑には、南下政策を進める高句麗と、百済や加羅を支援して戦った倭の軍勢についての記録が残されており、当時の激しい抗争の様子を裏付けています。
問3	答え 1 前方後円墳	3世紀後半の大和地方を中心に現れたこの形式は、円形の後円部と方形の前方部が合体した形状が特徴です。資料などで全長100mを超えるような大規模な古墳として紹介されるものの多くはこの形式であり、当時の王や有力な豪族の権威を象徴するものでした。
問4	答え 1 渡来人	大陸での争乱を避けるために日本に移り住んだ、あるいは大和政権に招かれた人々を指します。彼らは土木、養蚕、機織り、金属加工などの高度な技術のほか、漢字や仏教、儒教といった思想・文化をもたらし、日本が国家としての形を整える上で重要な役割を果たしました。
問5	答え 1 ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたと考えられています。
問6	答え 1 渡来人	5世紀から6世紀の古墳時代、朝鮮半島からの移住者である渡来人は、それまでの日本になかった高度な技術や文化を伝えました。土器においては、従来の土師器（はじき）とは異なる、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成する「須恵器（すえき）」の技術をもたらしました。また、漢字を用いた記録や、道徳的な教えである儒教、さらには6世紀に百済から伝えられた仏教など、その後の日本の国家形成に不可欠な知識を普及させました。
問7	答え 1 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭器化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問8	答え 1 朝鮮半島からの渡来人が、須恵器の製作技術や漢字、儒教などを日本に伝えた	朝鮮半島の緊張状態を背景に、多くの人々が技術や文化を携えて日本列島へ渡ってきました。彼らは「渡来人」と呼ばれ、土木技術、機織り、金属器の加工、さらには漢字や儒教といった高度な文化を伝え、ヤマト政権の発展に大きく貢献しました。
問9	答え 1 須恵器	それまでの日本で作られていた赤褐色の土師器（はじき）とは異なり、朝鮮半島から伝わった「穴窯」を用いて1000度以上の高温で焼き上げる製法が特徴です。この技術は渡来人によってもたらされ、貯蔵用や儀式用の器として広く普及しました。

問1 日本の古墳時代にあたる4世紀から6世紀ごろ、朝鮮半島では3つの国家が互いに勢力を競い合っていました。この3つの国家の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 高句麗・百済・新羅 2. 魏・呉・蜀 3. 隋・唐・宋 4. 渤海・高麗・新羅

問2 島根県内の古墳調査において、鍵穴のような形をした古墳が存在する一方で、長方形を二つ繋ぎ合わせたような形状を持つ古墳や、単純な円形の古墳も確認されています。この「長方形を二つ繋ぎ合わせたような形状」を持つ古墳の形式として正しい名称を選びなさい。（2025年 島根公立入試 類似）

1. 前方後方墳 2. 上円下方墳 3. 八角墳 4. 双方中円墳

問3 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術 2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度 3. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み 4. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度

問4 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

1. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。 2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。 3. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。 4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問5 古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと 2. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと 3. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと 4. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと

問6 古墳時代を象徴する墓の形式で、円形と方形を組み合わせた鍵穴のような独特の形状を特徴とし、大阪府にある日本最大の規模を誇る大仙古墳（伝仁徳天皇陵）にも採用されている名称を答えなさい。（2025年 島根公立入試 類似）

1. 前方後円墳 2. 前方後方墳 3. 円墳 4. 方墳

問7 古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したもののとして最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山公立入試 類似）

1. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。 2. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。 3. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。 4. 九州北部の防備にあたるとともに、防人として東国から徴集された。

問8 古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 岡山公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 遣唐使 3. 南蛮人 4. 防人

問9 5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため 2. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため 3. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため 4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 高句麗・百済・新羅	朝鮮半島では、北部の高句麗、南西部の百済、南東部の新羅の3校が対立し、抗争を繰り返していました。この情勢は当時の日本（倭）の外交や技術導入にも大きな影響を与え、日本は主に百済や加羅（加耶）の地域と結びついて行動していました。
問2	答え 1 前方後方墳	古墳時代には、最も代表的な前方後円墳のほかに、地域や時期によって様々な形状の古墳が造られました。前方後方墳は、その名の通り前部も後部も方形（四角形）で構成されており、島根県の造山1号墳や山代二子塚古墳などがその例です。このような形状の違いは、当時の地域勢力の独自性や大和政権との関係性を反映していると考えられています。
問3	答え 1 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問4	答え 1 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問5	答え 1 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問6	答え 1 前方後円墳	古墳時代の3世紀後半から6世紀にかけて、近畿地方を中心に日本各地で築かれた墓の形式です。この形式が全国的に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）による政治的な支配や影響力が各地に及んでいたことを示す重要な証拠と考えられています。大阪府の堺市にある大仙古墳は、この形式の代表例であり、世界最大級の墳墓として知られています。
問7	答え 1 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問8	答え 1 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問9	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしていました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。

問1 5世紀の大和政権は、朝鮮半島から得た鉄資源をどのように活用して国内の支配を広げたとされていますか。当時の状況を説明したものと最も適切なものを選んでください。（2019年 群馬県公立入試 類似）

- 鉄製の武器や鎧を量産して軍力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。
- 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。
- 鉄製の貨幣を鑄造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。
- 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。

問2 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

- 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた
- 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した
- 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した
- 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した

問3 5世紀ごろの古墳からは、鉄器の材料となる「鉄の延べ板」が数多く出土しており、朝鮮半島から移住してきた人々がもたらした技術の高さがうかがえます。これら渡来人が当時の日本（ヤマト政権）に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

- 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。
- 遣隋使が派遣されたことで、中国の優れた官僚制度がそのまま導入され、即座に律令国家が完成した。
- 平城京を中心に商業が発展し、全国で和同開珎などの貨幣が日常的に使われる経済構造へと変化した。
- 仏教が初めて伝来したことにより、それまで行われていた古墳の築造が全国で一斉に禁止され、寺院建築に移行した。

問4 大阪府堺市に位置する、全長約486mにおよぶ日本最大の前方後円墳の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。

（2018年 熊本県公立入試 類似）

- 大仙古墳
- 吉野ヶ里遺跡
- 三内丸山遺跡
- 登呂遺跡

問5 5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト政権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれていたとされる遺物はどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）

- 漢の皇帝から授けられたとされる金印
- 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀
- 近畿地方で多く見つかった銅鐸
- 装飾が施された石包丁

問6 5世紀後半のものとされる埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や、熊本県江田船山古墳出土の鉄刀には、「ワカタケル大王」という名が刻まれています。この事実から推測される当時のヤマト政権の様子について、最も適切な説明はどれですか。（2026年 和歌山公立入試 類似）

- 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。
- 大王は奈良盆地周辺のみを治める、限定的な勢力に留まっていた。
- 各地の豪族が大王の許可なく、独自に大陸と外交を行っていた。
- 大王の地位は固定されておらず、各地の豪族が交代でその任に就いていた。

問7 大陸から漢字、儒教、仏教などが伝えられた時期の日本において、新たに生産が始まった須恵器の特徴とその背景について述べた説明として、正しいものはどれか。（2023年 高知公立入試 類似）

- 朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。
- 国内の農民が独自に技術を開発し、「千歯こき」を用いて土を精製することで作られた。
- 中国からの使者が技術を伝え、平らな地面に薪を積み上げる「野焼き」によって低温で焼成された。
- 弥生時代からの伝統的な製法を守り、稲作の普及とともに東日本を中心に広まった。

問8 5世紀の朝鮮半島にある伽耶（加羅）地域から大和政権が得ていた資源で、武人の埴輪に見られるような鎧や武器の材料となり、政権の武力強化に大きく貢献した金属は何ですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

- 鉄
- 銅
- 青銅
- 金

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。	5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
問2	答え 1 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大將軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問3	答え 1 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。	渡来人が伝えた鉄器の製造技術は、それまでの木製や石製の道具に比べて耐久性と効率を飛躍的に高めました。これにより、大規模な治水工事や開墾が行われて農業生産力が増大し、その経済力を背景に大王（ヤマト王権）を中心とする支配体制の基盤が強化されることにつながりました。
問4	答え 1 大仙古墳	5世紀頃に築造されたこの墳墓は、当時の近畿地方を中心とした勢力のリーダーである「大王（おおきみ）」の墓と考えられています。前方後円墳とは、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状を持つ古墳であり、百舌鳥古墳群の中でも最大の規模を誇ります。
問5	答え 2 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問6	答え 1 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。	遠く離れた埼玉と熊本の両地域から同じ大王の名が記された遺物が出土したことは、5世紀後半までにヤマト政権の勢力（大王の権威）が関東から九州北部にまで拡大し、各地の豪族を服属させていたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問7	答え 1 朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。	須恵器の生産は、大陸からの高度な技術移転の象徴です。それまでの土器が赤褐色で比較的脆かったのに対し、熱効率の良い「登り窯」を使用することで酸素を制限した還元炎焼成が可能となり、硬質の青灰色の土器が誕生しました。同時期には文字（漢字）の使用や学問（儒教）も伝えられており、大陸との交流が当時の社会制度や技術を大きく発展させたことがわかります。選択肢にある「千歯こき」は江戸時代の農具であり、時代が異なります。
問8	答え 1 鉄	大和政権は、朝鮮半島の南部に位置する伽耶（加羅）地域から鉄資源を安定的に確保し、それを用いて高度な武器や鎧を製造しました。当時の古墳から出土する武人の埴輪が鎧をまとっていることから、この金属が軍事力の象徴であったことがわかります。これにより、政権は軍事的な優位を築きました。

問1 5世紀のヤマト王権の有力者たちは、当時の中国において、政治的な正当性や朝鮮半島での軍事的な立場を認めてもらうために使者を派遣しました。このとき、ヤマト王権が朝貢を行った中国の王朝の総称として正しいものを選択してください。（2024年

三重公立入試 類似）

1. 南朝 2. 北朝 3. 隋 4. 唐

問2 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。（2019年

高知県公立入試 類似）

1. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため
2. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため
3. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため
4. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため

問3 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、5世紀頃に造られた日本最大の前方後円墳である大仙古墳が含まれている。このような巨大な古墳が築かれた時代の外交の特徴として、適切なものはどれか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。
2. 中国の北朝へ使者を送り、仏教を公式に伝えるよう要請した。
3. 唐へ遣唐使を派遣し、律令に基づく中央集権的な国家体制を導入した。
4. 元（モンゴル）からの服属要求を拒否し、九州沿岸の防備を固めた。

問4 古墳時代の中期ごろ、朝鮮半島から伝えられた技術によってつくられるようになった、高温の窯で焼かれた硬質の灰色の土器を何といいますか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 須恵器 2. 土師器 3. 弥生土器 4. 縄文土器

問5 4世紀から5世紀にかけての古墳時代、大陸から日本列島へ移り住んだ渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い土器の名称を答えなさい。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 縄文土器 2. 弥生土器 3. 須恵器 4. 土師器

問6 古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと
2. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと
3. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと
4. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと

問7 日本の古墳時代にあたる4世紀から6世紀ごろ、朝鮮半島では3つの国家が互いに勢力を競い合っていました。この3つの国家の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 高句麗・百済・新羅 2. 魏・呉・蜀 3. 隋・唐・宋 4. 渤海・高麗・新羅

問8 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。（2026年 山形公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 縄文人 3. 弥生人 4. 防人

問9 古墳時代の日本列島において、大陸から移住した渡来人が果たした役割と、彼らがもたらした文化的影響について述べた文として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 岡山公立入試 類似）

1. 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。
2. 鉄砲の伝来に寄与し、戦国大名の戦い方や城の構造に劇的な変化をもたらした。
3. 稲作の技術を初めて伝え、狩猟・採集中心の縄文文化から弥生文化への転換を促した。
4. 青銅器を用いた祭祀の道具を伝え、卑弥呼が統治する邪馬台国の成立を助けた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 南朝	5世紀の中国は、華北を支配する北朝と、江南を支配する南朝に分かれて対立していました。地理的に南に位置する王朝と交流しやすかったヤマト王権は、南朝の諸王朝へ「倭の五王」と呼ばれる王たちが相次いで使者を送り、朝貢を行いました。
問2	答え 1 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問3	答え 1 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。	大仙古墳に代表される巨大な前方後円墳が造られた5世紀は、大和政権の王（倭王）が自らの権威を内外に示すために、中国の南朝へ朝貢した時期と重なります。この時期の外交は、朝鮮半島での軍事的な立場を強化し、鉄器の材料となる鉄資源の供給源を確保することが大きな目的の一つでした。
問4	答え 1 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。
問5	答え 3 須恵器	古墳時代になると、朝鮮半島などから移住した渡来人によって、新しい技術や文化がもたらされました。その一つである須恵器は、それまでの弥生土器などが野焼き（低温）で焼かれていたのに対し、斜面を利用した「登り窯」を用いて1000度以上の高温で焼成されました。この技術革新により、実用的で堅牢な土器の生産が可能となりました。
問6	答え 1 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問7	答え 1 高句麗・百済・新羅	朝鮮半島では、北部の高句麗、南西部の百済、南東部の新羅の3校が対立し、抗争を繰り返していました。この情勢は当時の日本（倭）の外交や技術導入にも大きな影響を与え、日本は主に百済や加羅（加耶）の地域と結びついて行動していました。
問8	答え 1 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問9	答え 1 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。